

平成29年度第2回白井市立図書館協議会（概要）

- 1 開催日時 平成30年3月1日（木） 14：00～16：20
- 2 開催場所 白井市立図書館2階 研修室1
- 3 出席者 委員 尾形会長、柏木副会長、渡辺委員、大石委員、野坂委員、中野委員、北原委員
事務局 井上教育長、山本文化課長、黒澤館長、鎌田副主幹、内山副主幹
- 4 傍聴者 4名
- 5 会長あいさつ
- 6 教育長あいさつ
- 7 報告事項
 - (1) 平成29年度主要事業中間報告及び利用状況について
 - (2) 平成29年度資料購入状況について
 - (3) 「超高齢社会における図書館サービスの充実について」（議会報告）
 - (4) 図書館業務一部委託について（教育委員会議報告）
- 8 協議事項
 - (1) 平成30年度重点目標（案）について
 - (2) 平成30年度主要事業計画（案）について
 - (3) 平成30年度図書館費（案）について
 - (4) 平成30年度資料購入計画（案）について
 - (5) 白井市立図書館サービス計画（案）について
- 9 その他
- 10 配布資料
 - (1) 会議次第
 - (2) 会議資料
 - (3) 平成30年度図書館カレンダー
 - (4) 文化センターだより1・2・3月号
- 11 議 事 以下のとおり

会 長	朝は荒れ模様だったが良い天気になってよかった。前図書館協議会会長が「我々は図書館応援団」と言われていた。よりよい図書館運営ができるように事務局からの情報など共有しながら、忌憚のない意見をいただき実りのある会議にしたい。
事務局	報告事項（1）平成29年度主要事業中間報告及び利用状況について （2）平成29年度資料購入状況について （3）「超高齢社会における図書館サービスの充実について」（議会報告） （4）図書館業務一部委託について（教育委員会議報告）について報告。

会 長	(3) 議会での質問は、どのような位置づけになるのか。予算の審議 に対しての質問か。
事務局長	定例議会で議員からの一般質問として出され、行政として回答してい る。
会 長	(2) 平成29年度資料購入状況について、この予算の達成率という のは平成30年度予算に反映させるために必要なのか。
事務局	予算は計画通りに執行するためにあり、残れば「執行残」として報告 する。図書館資料購入は、計画に沿って全額使用する予定でいる。な お、前年度の執行状況が良くないと翌年度予算ヒアリング時の確認項 目となる。
会 長	計画した目標が達成できなかった場合は、議会への報告は必要なの か。
事務局	予算の執行状況は、全ての項目を決算で報告している。
委 員	全般についての質問になるが、書庫にある資料の出納を頼むのがわず らわしく、貸出しをせずに済ますことがある。また、本の天と地に「白 井市立図書館」という押印があり、通勤などで読む際目立っている。 押さないで済ますことはできないか。
事務局	盗難対策として本の天と地に館名を押印している。平成16年度から 図書館資料の無断持ち出しが金額として1千万円以上あった。盗難防 止装置の設置には「億」単位のお金が必要なため、その当時予算をか けずにできる対策として、高額な資料や新刊図書を書庫に入れる、蔵 書印を押印することとした。潤沢な資料費があれば、その分を補填す ることができるが、予算は大変厳しい状況である。現在では新着図書 を書庫に入れることはしていないが、たとえ価格の低い資料でも盗難 されると困るので、蔵書印をやめることはできない。ご理解いただき たい。
事務局	協議事項(1)平成30年度重点目標(案)について 説明。
会 長	「年報しろいの図書館」は内部業務用の資料なのか。市民、行政職員、 議員などに公表している資料ならば、重点目標を載せる場合、わかり やすい文言がよいのではないか。「各種サービス」は、わかりにくい。 これを委員の皆さんと協議するにあたり、大事なメッセージになると

	思う。
委員	この重点目標はわかりにくい。スモールステップがあるとわかりやすいと思う。
事務局	この重点目標に基づく「白井市立図書館サービス計画」を後でお示しする。計画を踏まえて委員の皆様に審議していただきたい。
事務局	協議事項(2)平成30年度主要事業計画(案)について (3)平成30年度図書館費(案)について (4)平成30年度資料購入計画(案)について 説明。
委員	(2)平成30年度主要事業計画(案)について、施設への貸出し資料は具体的にどのようなものか。
事務局	読み物や写真集などを図書館職員が選んでいる。また利用者から要望があった資料は、そちらを提供している。
委員	資料費が若干増えるのであれば、朗読CDなどを購入し、施設にも貸出しするとよいのではないか。(4)平成30年度資料購入計画(案)について、各センター図書室の予算が増加している理由は何か。
事務局	平成30年度の計画は、前年度の購入実績を加味することにしたため、例年より多くなっている。内訳の話になるが、シリーズものは同じ館で購入するようにしている。
委員	学校への巡回は大変ありがたい。図書館で物流があるところは少ない。平成30年度主要事業計画(案)で学校への巡回が年間22回となっている。使われていない便もあると思うので、巡回を必要最低限にして、その分を資料費に回してはどうか。学校では便数が多いほうがよいけれども、効率的に予算を使うには必要ではないか。回数が妥当かどうか次回検討してはどうか。
事務局	資料運搬業務は、長期継続契約で契約期間が複数年となっている。次回平成32年度の契約更新時には、学校の意見を伺い検討したい。
委員	小学3年生から英語の絵本を使って授業を行う。図書館で外国語の資料を購入する場合、学校では購入できない大きな絵本をお願いしたい。図書館所蔵の資料であれば、一般の利用者も使えるので検討して欲しい。また、古本の購入や寄贈を募るなどして資料数を増やすこと

	はできないか。
事務局	多文化サービスで購入する資料は、一般の利用者を対象としている。内容によっては、学校でも使えるものもあると思う。図書購入は契約により購入先が決まっている。装備費用を含んだ価格なので、実質的には値引きになっている。ネットで流通している古書は、購入が難しい。寄贈は年々増えているが、状態が良くなかったり専門書だったり当館の要望と一致しないものもある。また、著者や出版社などから寄贈についての意見をいただいております、広く募るのは遠慮している状況である。
委員	白井市内の学校図書館全体で所蔵していれば足りるのではないかと、という意見もあるが、授業で必要な時期が重なる事があり、学校間で資料を巡回させると間に合わないこともあるため、自校に資料が必要である。
委員	市民協働で提案がある。ビブリオバトルをぜひやって欲しい。市庁舎改修工事が終了した後に、学校教育課と生涯学習課と協力して、子どもから大人まで参加できるような、アクティブな事業に取り組んで欲しい。その際には図書館の資料を使って行うイベントがよいと思う。図書館は静かな事業が多いので、動きがある事業も必要ではないか。
委員	学校・保育園・センター・高齢者にお話を届けている。ぜひ大型絵本を買って欲しい。
会長	図書館以外で担当課の予算から支出してもらおうわけにはいかないか。
事務局	財政当局は「本」と聞けばすぐに「図書館」と考えている。この体質は変わらない。お話を伺っていて理由付けとして予算要求していくことはよいと思った。
事務局	(5)白井市立図書館サービス計画（案）について 説明。
委員	この重点目標と予算案は具体的にどのようにリンクしているのか。
事務局	図書館は、図書館法第3条の「図書館奉仕」に謳われていることを、これまで行い、これからも行っていくために具体的にサービス計画を明文化した。重点目標と予算のリンクは、厳しい財政状況のなか難しいが、多様化する市民要求に応えるため、その年度の重点目標を定め、予算の範囲で可能なものから取り組んでいる。図書館の運営は市が直

	<p>営で行っていく方針であり、司書が本来の司書業務に専念できるように、一部業務委託を導入する方針である。</p>
会 長	<p>市民生活に寄り添うということが図書館の強みである。職員の図書館への思いも目標に入れて欲しい。わかりやすい内容の計画（案）が必要だと思う。計画を達成できるように理解者を増やし、図書館行政を理解してくれる議員に投票するなど、図書館を支援することに繋がるのではないかと。また、行政としての図書館の位置や市の総合計画のどの部分にリンクしているかがわかると応援したい市民も広がっていくのではないかと。</p>
委 員	<p>「基準」と「目標値」とは違うと思う。白井の図書館はどのあたりを基準にして、目標値にしているのか。足りない部分を予算化できる資料がよいと思う。</p>
委 員	<p>サービス計画（案）の（４）障がい者サービスについて聞きたい。図書館を利用できない人だけでなく、すでに利用している人、両方の立場で書いて欲しい。来館している障がい者の中には、話しかけられない人もいる。他市での円卓会議に出席し、様々な立場の人の話を聞いた。学校に行きづらいという人が、「図書館は居心地の良い場所で、サイレントサービスがありがたい」という話を聞いた。以前白井の図書館で「利用者が大声で職員に何かを言っていて、その場面を見たら図書館に行きづらくなった」という話も聞いたことがある。</p>
会 長	<p>図書館で大事な時期を過ごした人もいると思うし、図書館職員に会いたくて来ている人もいるのではないかと。その人たちにはとても大事な場所である。知的発信源の図書館を行政職員や議員にアピールする必要がある。</p>
委 員	<p>漫画は紙よりもデジタルの販売数が多くなったそうだが、紙の資料がデジタル化されていくと図書館ではどのような対応になるのか教えてもらいたい。デジタル化資料は貸出し可能か。</p>
事務局	<p>電子書籍を導入している図書館は少ない状況である。導入している東京都の図書館の話では、貸出後利用者が印をつけても返却時には残らないなど汚損・破損がないこと、延滞による督促不要など良い面もある一方、不便な面は、コンテンツが少ないことや、使用するには電算設定など維持費が高額なうえ、定期的に発行されないため白書やガイドブックなどの新しい情報が必要なものには向いていないことである。また、サービスを提供している会社が中止すると、電子書籍が消失する場合があります。図書館の所蔵にならない問題もある。情報を集め、調査してい</p>

	る状況である。
会 長	図書館内にW i - F i 環境があるとよいと思う。また、デジタル化した資料を自宅で見ることができれば、来館が困難になった場合や働いていて日中図書館に来館できない人にも便利である。デジタル化した資料が学校間でも利用できればよいのではないか。図書館計画の中にこの動きを入れてはどうか。予算獲得には何か別のアプローチが必要かもしれないが。
委 員	無料W i - F i があると集客に使える。若い人たちはデータ残量を気にしていて、使える場所ならやってくる。
委 員	図書館サービス計画、この「サービス」という言葉に違和感を覚える。利用者は本を借りて「ありがたい」という立場ではないか。事業計画など名称を考えてはどうか。
委 員	図書館では居心地がよいサービスが出来ていると思う。図書館の職員も仕事というより優しい対応で、その対応によってまた利用者はもっと居心地がよくなっている。私はサービスという言葉がよいと思う。
会 長	この計画案に賛同する方挙手を願う。 (委員7名全員挙手) 全員賛同ということでよろしいか。事務局にはこのサービス計画に今までの委員の意見を加えて修正し、次のステップに進んでいただきたい。ここで会議を終了したい。
事務局	長時間にわたりありがとうございました。